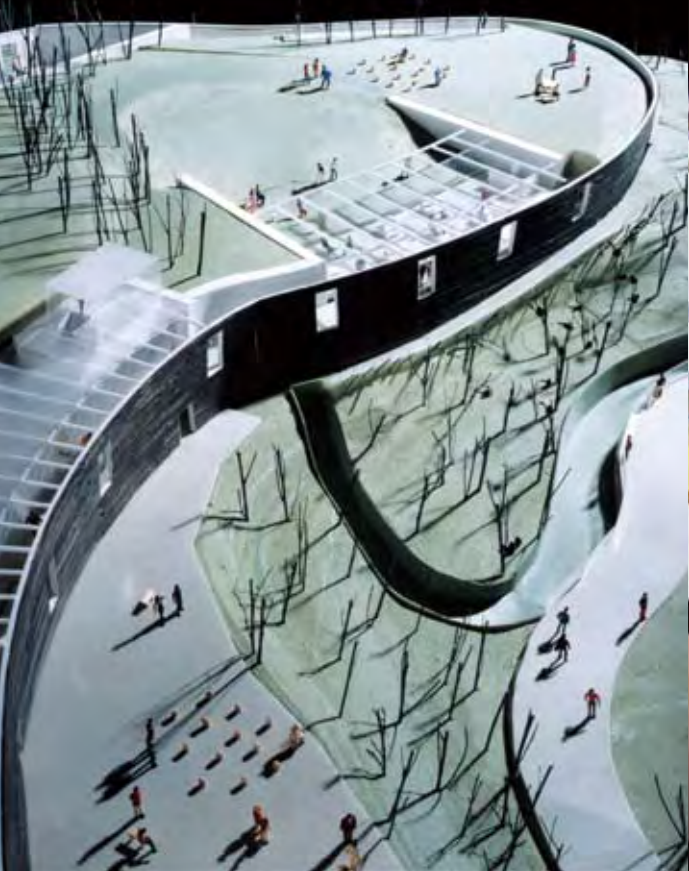




SHUNKEN 2008-11 36-03



駿建

2008 年秋期号 Vol.36 No.3 日本大学工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

「NU ARCHITECTURE WEEK (NU建築週間) 2008」報告

建築週間WG

5月29日(木)から31日(土)まで、建築学科を挙げたイベントである「建築週間」が開催された。初日は雨天で、さらには藤森照信氏のレクチャーが急遽中止になるなど、波乱含みの幕開けであったが、思いのほか来場者の出足も順調で、昨年からの準備に携わってきたWG一同も、ほっと胸をなで下ろした。

このイベントは、これまで毎年4回程度、延べ30回以上開催されてきた「NU建築フォーラム」が母体となっている。昨年度は、3回分のレクチャーと「スーパージュリー」を組み合わせた連続イベントとすることで、試行としての「建築週間」を開催したが、今年度から5号館が「建築学科棟」となり、すべての研究室が集結したことを機に、さまざまなコンテンツを加え、建築学科の存在を内外にアピールする本格的な複合イベントとして始動した。今回はとくに、普段は船橋にいる1年生や、駿河台に来たばかりの2年生に、各研究室がどのような活動をしているのか、あるいは先輩の卒業設計はどのようなものかなど、建築学科の姿を体験し見学できるようにすることを重視した構成を考えた。

今年度行われたコンテンツの概要は、以下の通りである。

・オープンラボ

通常は所属するゼミ生しか出入りしない研究室のドアを、文字通り「オープン」にし、各研究室の活動や雰囲気気軽にふれられるようにした。初めての試みで、開放する側も訪れる側も戸惑い気味の感があったが、関心のある学生たちにとってはよい機会となったようである。後期に「ゼミナール」が行われ、来年度は各研究室に所属することになる3年生には、とりわけ興味深かったのではないだろうか。

・NU建築フォーラム

建築週間の中心となるコンテンツである。今年度は、「環境」「都市」「構造」「設計」の各系からそれぞれ企画を持ち寄ることにしたため、バラエティーに富んだ内容となり、それぞれの会場が満員となる盛況であった(各レクチャーの詳細については「レポート」参照)。



リフトアップされるエントランスドーム

・展示

5階の製図室を開放してさまざまな展示が行われた。2月の発表時期にしか目にするのでできなかった「修士・卒業設計優秀作品展」には、設計に関心のある学生たちが熱心に見入っていた。建築学会長である斎藤先生が企画されている「アーキニアリング・デザイン展2008」のスタディ模型発表会では、構造デザイン研究会有志による模型も加わり、多数の有名建築の構造原理が、分かりやすく展示された。さらに昨年度の海外研修旅行の写真展も加わり、美しい写真が花を添えていた。

・エントランスドーム

アルミシザーズドームが、エントランスゲートとして5号館入口に設置された。岡田先生、宮里先生の指示のもと、学生たちによってリフトアップされる様子は、それ自体がイベントであった。吹き抜けに設置されたドームは、そのまま残しておきたいという声上がるほど、あつらえたかのようにぴったりと納まっていた。

上記に加えて、飛び入り企画(?)として、「デザインI」の公開講評会が4階の製図室で行われるなど、盛りだくさんの3日間となり、最終日の講演者である榎先生を迎えての懇親会で幕を閉じた。今回のイベントも、各系の大学院生(とくにM1)が中心となって、さまざまな準備や当日の運営を支えてくれた。彼ら無くては、このようなイベントは成立しない。お疲れさまでした。初めての試みということもあり、さまざまな課題も残されたが、開催時期やコンテンツなどを改めて検証しながら、ゆくゆくは対象を建築学科OBや高校生、地域住民にまで広げられるようなイベントとすることを目指し、来年度の開催に向けて準備を進めたいと考えている。

(佐藤光彦・准教授)

NU建築フォーラムレポート

1. 「サステナブル建築『船橋校舎14号館』の環境・設備計画と運用」

講師：吉原和正(日本設計 環境・設備設計群 設計グループ 主任技師)

モデレーター：早川 眞（建築学科教授）

社会的に注目されているサステナブル建築として船橋校舎 14 号館を取り上げ、実際に環境・設備設計に携った日本設計の吉原和正氏をお迎えして、早川眞教授との対談を企画した。対談は「計画」「性能検証+運用」「最近のサステナブル建築の事例」の三部で構成され、それぞれ吉原氏が解説し、次いで早川教授との対談、会場からの質問とテンポのよい講演であった。

第 1 部「計画」では、14 号館の省エネルギー手法の紹介がされ、中でも誰もが 14 号館をみると印象に残る“透明な 2 本の煙突「ソーラーチムニー」”を詳しく解説いただいた。このソーラーチムニーにより 24 時間自然換気の促進が図られている。参加者の多かった学部 2 年生は、環境工学の授業でもちょうど自然換気を勉強しているところであり、実例を学ぶよい機会であったと思う。

第 2 部では、「日大理工+大成技研+日本設計」の合同チームによる性能検証について解説いただいた。2004 年度運用実績としては、エネルギー消費量 29% を達成しており、内訳として「ソーラーチムニー 4.4%」、「CO₂ 制御 + VAV13.1%」、「その他 10.7%」とソーラーチムニー以外にも、省エネルギー手法として多くの手法が 14 号館に導入されていることを解説いただいた。ちなみに、ソーラーチムニーのコスト面での投資効果としては、初期投資がかかるものの 25 年で回収できるようである。

第 3 部では、吉原氏の手がけたサステナブル建築を中心に、建築作品と環境・設備計画について解説いただいた。とくに秋田の学校では、夏の冷房にうまく冬場の雪を使う方法を採用しており、わが国の地域特性に配慮した省エネルギー手法をご紹介いただいた。

全体的に会場からも多くの質問が飛び出し、活発な講演となった。参加した学生たちにとっても環境・設備の実例を学ぶ有意義な機会であったと思う。（富田隆太・助教）

2. 「世界都市東京の近未来像と開発プロジェクトの行方—成熟社会における都市開発の課題—」

講師：富岡裕一郎（竹中工務店 プロジェクト開発推進本部）

広井義政（大成建設 都市開発本部）

中条幸司（鹿島建設 開発事業本部）

モデレーター：根上彰生（建築学科教授）

今回の NU 建築フォーラムは、系ごとの特色を生かして行うこととなったため、企画系としては、本学企画経営コース出身で、主に都市開発の分野でご活躍されている方々にお越しいただき、世界都市東京のこれからの都市開発プロジェクトの動向を探ることを目指した。また、学内からは根上彰生教授がモデレーターとして参加された。設定したテーマが大きいことから、複数の方にあらゆる視点でお話しいただくことを意図した。

講演は二部構成で進めた。第 1 部は「都市開発の現況編」として、各講師がかかわってこられた都市開発プロジェクトをご紹介いただきながら、東京で展開されている都市開発について話題提供をしていただいた。建築の技術的な要素を押さえた上で、マーケティング、商品企画、事業手法などあらゆる角度から講演していただいた。第 2 部は、第 1 部を踏まえた「今後の展望編」として、都市開発の今後の展望や、学生に期待することなどを講演していただいた。東京における都市開発の今後の展望としては、まち全体の付加価値を上げるような取り組みが重要であること、安全・安心・便利といった基盤に加え、プラスアルファが必要なこと、まちのイメージを変えるような都市開発も必要であること、「多様性」「国際性」も欠かせないことなどが具体例とともに説明された。

また、後輩でもある学生たちに対して、社会で起きている課題などをきちんと認識すること、魅力ある建築などを自分の目で見て勉強すること、建築以外の分野についても自分の幅を広げることも重要だということなどをお話しいただいた。

最後に総括を兼ねて質疑応答としたが、社会人、他大学の学生からも積極的に質問が出るなど、価値のある講演会となったと思われる。予想をはるかに上回る 200 人近い来場者のため、会場変更などのトラブルもあったが、学生たちにとっては大きな示唆を得られる貴重な機会だったのであろう。（川島和彦・専任講師）



「アーキエアリング・デザイン展 2008」
スタディ模型発表会



船橋校舎 14 号館の建築・設備計画を解説する早川先生



企画系の講演会場

3. 「ダイナミックマスをを用いた複合制震設計」

講師：石丸辰治（建築学科教授）

国内外の多くの研究者や設計者が注目している「ダイナミック・マス・ダンパー」を開発した石丸辰治教授にご登壇いただいた。当日は、学生や教員だけでなく、桜建会構造系懇談会のメンバーや企業・研究所など外部機関からも数多くの方が来場して下さり、まさしく日大発の革命的な技術を学内外に向けて発信する場となった。趣向を凝らし、5号館の再生によって生まれ変わった食堂スペースを会場としたが、食堂から直接見ることができるトグル制震装置は、最新技術に触れる空間の演出として効果的に作用しており、外部の薄明かりとともに独特の雰囲気醸し出していた。

ここで、簡単に「ダイナミック・マス・ダンパー」について説明しておく。ダイナミック・マス・ダンパーとは、装着部位間の加速度差に応じて抵抗力を発揮するダンパーであり、振動論的に構造物の質量を調整することができる。構造物の質量を調整するという、従来にはない発想を振動論的に実現した点が「革命的」と称するゆえんである。さらに、ダイナミック・マス・ダンパーを用いることにより、振動方程式中の質量（M）、粘性減衰（C）、ばね剛性（K）をすべて制御可能な制震システムが構成できることを証明しており、免・制震分野におけるブレイクスルーを成し遂げたといえる。

講演会の準備段階においては、複雑で難しい（？）振動論の知識を必要とするダイナミック・マス・ダンパーの説明を、講演会に参加する学生たちが理解できるか不安であった。しかし、その心配は杞憂であった。石丸教授が数多くの実験映像やアニメーションを活用し、ダイナミック・マス・ダンパーのイメージを丁寧に分かりやすく説明して下さったので、学生も十分に楽しむことができたろう。石丸先生の研究者としての存在感とともに、教育者としての細やかな心遣いも垣間見え、参加者全員が知的好奇心を刺激された有意義な時間となった。

（田嶋和樹・助教）

4. 「建築家・槇文彦を読む」

講師：槇 文彦（建築家）

モデレーター：横河 健（建築学科教授）

設計・計画系では、現代建築の旗手である建築家・槇文彦氏をお迎えして、横河健教授の企画による対談形式の講演会「建築家・槇文彦を読む」が行われた。小雨というあいにくの天気にもかかわらず、およそ500名の聴衆が学内外から集まり、熱気に包まれた講演会となった。

講演は二部構成で進められた。前半はモデレーターの横河教授によって、豊田講堂、代官山ヒルサイドテラス、青山スパイラル、東京体育館、幕張メッセ、風の丘葬祭場、ニューヨークWTCビル跡地のグラウンド・ゼロの再生計画など、初期作から最新作まで槇氏の作品が紹介され、氏の建築の系譜と背景が整理された。後半は氏を壇上に迎え、横河教授の質問に答える形で作品の背景にある設計理念やエピソードなどをお話しいただいた。幼い頃に建築家・土浦亀城の自邸を訪れた時の空間体験や、コルビュジエから受けた豊田講堂の設計へのコメント、同時代を走ったメタポリズムの建築家と自らの立場や思想の違いや、ヒルサイドテラスが誕生し成長していく過程での施主やまちとのかわり合いなど、普段では聞くことができない貴重なお話を伺うことができた。また、会場には学生スタッフが制作した豊田講堂の巨大な模型が展示され、二人がそれを指差しながら対話する場面も見られた。横河教授や会場からのさまざまな質問に対して、氏が終止穏やかに、そしてウィットに富んだ返答をされていたことが印象的であった。建築家・槇文彦の豊かで深遠な設計思想や、謙虚で紳士的な設計姿勢に身近にふれることができる貴重な機会となった。

大川三雄教授の企画による設計・計画系のもう一つの講演会「藤森照信とは何か―藤森照信の建築的快楽」は講演者の都合で残念ながら講演の直前に中止となった。学生や関係者の期待が大きかった講演だけに、別の機会に本校へ再度招聘することが検討されている。

（山中新太郎・助教）



質問に答える石丸先生



槇文彦先生のレクチャー



槇先生を囲んでの懇談会

2008年度 デザインワークショップⅡ

今村雅樹

本年も夏季集中「デザインワークショップⅡ」が8月5日から11日まで、5号館4階と5階の製図室を使って行われた。参加者は93名で4名のユニットマスターのもとに分かれ、各指導建築家の建築事務所の設計の進め方にならって課題がまとめられていった。

今年の課題テーマは「自然のなかのロッジに生きるガラス質」という広く公開されている日本電気硝子主催のアイデアコンペを授業に取り組み、実際に参加提出するという授業である。学生諸君は2～3人で1グループを形成し、1グループ1案を共同で設計提案することが前提となっている。設計途中でグループが崩壊したり、最終提案に至らない場合は単位が取れないものとし、共同設計で協力し合いながら意見をまとめてかたちにすることを設計教育の主眼とした課題であった。

3年生の学生諸君にとっては、材料としてのガラス質(板ガラス、ガラスブロック、ガラス系建材、ファイバー、フィルムなど)というリアルなマテリアルから空間を考えていくというアプローチに挑戦する初めての経験をし

たのではないだろうか。普段の設計課題では、コンテキストや計画的なこと、そしてプログラムの構築などソフト面からデザインへと考えを発展させるアプローチが多いと思うが、物としてのガラス質の材料を学習し、そこから提案するという違ったアプローチは新鮮であったに違いない。

最終講評会には各ユニット3グループが発表し、そのなかでマテリアルとアイデアとの考え方や表現の仕方などを公開で講評が行われ、各ユニットから一つずつ賞が贈られた。

今村雅樹賞は河野麻理・駒井友香・高野真由美らによる「雨空間～都市に咲く花」、石黒由紀賞は平川みなみ・藤井悠子・藤原拓・松岡亜也加による「shabon」、納谷学賞は赤瀬玲於奈・田中里佳・中邑真路による「100万本の硝子繊維」、前田紀貞賞は赤津成紀・池上晃司・高木彩名による「2916pixelのロッジ」となった。

コンペ自体の最終発表はこの冬なので、結果が楽しみである。
(いまむらまさき・教授)



講評会



講評会



今村雅樹賞



石黒由紀賞



納谷学賞



前田紀貞賞

長谷川洋平



会場風景

「スーパージュリー 2008」が、去る10月11日（土）に駿河台校舎1号館 CST ホールにて開催されました。「スーパージュリー」とは、学年・クラスに分かれて行われている設計科目から優秀作品を集め、横断的に講評会を行うもので、今年で6回目の開催となります。

スーパージュリーに先立ち、9月30日（火）から10月11日（土）まで、同じく1号館 CST ギャラリーにて展示が行われ、学部2年から大学院1年までの優秀作品、計25点の図面と模型が展示されました。

スーパージュリーでは、2、3年生を中心とした計21作品について、本人による発表とゲスト審査員による講評が行われました。今回は、ゲスト審査員として玉置順（玉置アトリエ）、中谷礼仁（早稲田大学理工学術院建築学科准教授）、長谷川豪（長谷川豪建築設計事務所）（敬称略）の3名にご参加いただきました。司会は佐藤光彦准教授が務め、本学の常勤、非常勤講師である先生方にも多数お越しいただきました。

会場には多くの学生が詰め掛け、スクリーンにリアルタイムで映し出される発表者の模型、図面を見ながら、白熱する講評会に参加していました。他学年・クラスの優秀作品を見ること、またゲスト審査員による授業時とは異なる視点の講評を聞くことは、当日発表できなかった学生にとっても、自身の設計の参考になる点が多くあったのではないかと思います。来年度も多くの学生の参加を期待します。

講評会後は2階カフェテリアへ場所を移し、懇親会が行われ、ゲスト審査員からそれぞれスーパージュリー参加者に賞が贈られました。以下は、スーパージュリーの総評と受賞者に対する各審査員の講評をまとめたものです。

玉置順賞：関根拓也（3年）

日本大学にはしっかりした発表の場があって、このような機会を与えられている皆さんは、とても恵まれていると思います。大人数で学ぶ環境に皆さんはいらっしゃるの、がむしゃらに先生にしがみついて、先生がもっている知識や経験を吸い尽くすぐらい多くを学び取ってください。習得技量という点では、本日発表された皆さんはとても優秀で、説明もなかなか良かったです。ただ、皆さん共通して断面図の表現力が弱いので、それは自覚してほしいと思います。

玉置賞は迷いましたが、個人的に気に入った関根君を選びました。理由としては、関根君が企画経営というコースで勉強をしている、「企画」というものをとても意識的に考えて設計していたところです。設計の内容で見ると他にも良い作品がありましたが、彼のもつバイタリティとキャラクターの良さにひかれて賞を選びました。

中谷礼仁賞：鈴木康二郎（3年）

賞ではないですが良いなと思った人は、長島さん、岸さん、賀野さんです。4年生以上は採点対象外なのでご安心ください（笑）。中谷賞は鈴木君です。鈴木君の設計はオーソドックスで古いともいえる形をしていましたが、彼の考えている様子がとても良く、しっかり学んでいる、きちんとした設計者になれると思いました。

早稲田大学もそうですが、日本大学は大人数教育です。大人数だと激レースの中で、テクニックだけにこだわる学生が多くなる傾向にあります。本日発表された作品は内容がしっかりしていました。指導の先生方が、確かな目をもって作品を選んでいくことに敬意を表したいで



中谷礼仁賞 鈴木康二郎



長谷川豪賞 海老澤珠里



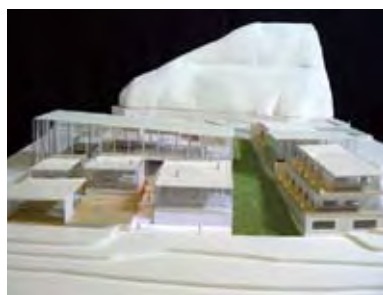
特別賞（佐藤光彦賞） 中村まり



講評会



玉置順賞 関根拓也 (まちのライブラリー)



玉置順賞 関根拓也 (長者ヶ崎セミナーハウス)

す。大人数教育の良さは、表現は後ろ向きかもしれませんが、「良い有象無象」を育てることだと思います。建築は建築家からしか考えられないのではなく、どんな人でも考えられるものです。皆さんが良い有象無象となって社会に出ていけば、社会も楽しくなるはず。今後皆さんで交流を図って頑張ってください。

特別賞は中村さんです。大変上手な設計だと思います。まだまだ改善の余地はありますが、広い敷地に対して有効な設計ができていたと思いました。またスマートに設計しているようで、模型に努力の跡が見られたのが良かったです。

(はせがわようへい・助手)

長谷川豪賞：海老澤珠里（3年）

全体的な印象としては、もっと突出した案、変態的な案の人がいても良いと思いました。本日発表に至らなかった人の中に、そのような方がいたのかもしれませんが。発表に至るかどうかはごくわずかな差だと思うので、次の機会に向けて頑張ってください。また、何となく無自覚に形を作っている人が多い気がしました。自分の作る形をもっと疑って、考えてほしいと思います。中谷先生がおっしゃっていましたが、建築が長い歴史を通して、なぜ現在の形になっているのか考える必要があると思います。私たちはいくらでも新しいアイデアを出せるし、どんな形でも作れるけれど、建築が背負ってきた文化と自分のアイデアを戦わせ、葛藤することが重要ではないかと思っています。

長谷川賞は海老澤さんです。理由としては決して新しい提案はしていませんが、大きな模型を作ってきた熱意と、今後化けてくれそうな期待がもてたことです。

特別賞（佐藤光彦賞）：中村まり（2年）

ゲスト審査員の先生が決まった当初、先生方の前に皆さんの作品を出すことに不安も感じましたが、皆さんが上手に説明できたので良かったと思います。

2年	建築設計Ⅱ	第1課題 パブリックスペース	菅野菜実子, 田中陽一郎, 長島早枝子, 能勢摩耶, 丸山義貴
		第2課題 住宅	中井翔也, 村山寛子, 岸 香里, 中村まり
3年	建築設計Ⅳ	第1課題 (設計・計画コース) 駿河台図書館	池上晃司, 賀野のどか
		第1課題 (企画経営・環境・構造コース) まちのライブラリー	関根拓也, 水谷 亮
		第2課題 (設計・計画コース) お茶の水小学校	海老澤珠里, 鈴木康二郎
		第2課題 (企画経営・環境・構造コース) 長者ヶ崎セミナーハウス	関根拓也, 長島あかり
4年	建築設計Ⅵ	ビルト・エンバイロ ンメントの再構築	<村松ユニット> 佐藤久子, 下大園将人, 向井正伸
			<榎本ユニット> 佐脇三乃里, 鈴木亮介
			<横河ユニット> 中野 透, 森本栄貴, 山本崇剛
			<根上・宇崎・伊藤ユニット> 原 友里恵, 藤村知子, 森實幸子
M1	建築デザインⅠ	再生	<今村ユニット> 古澤修一
			<藤江ユニット> 岩田敏幸
			<西沢ユニット> 倉又式子
			<富永ユニット> 小野志門

展示出展者リスト



展示風景



懇親会



授賞式

第40回 建築学生海外研修旅行報告

今回の海外研修旅行は、22日間（Aコース）と25日間コース（Bコース）を設け、実施し、学部2年生から大学院生まで合計76人が参加しました。

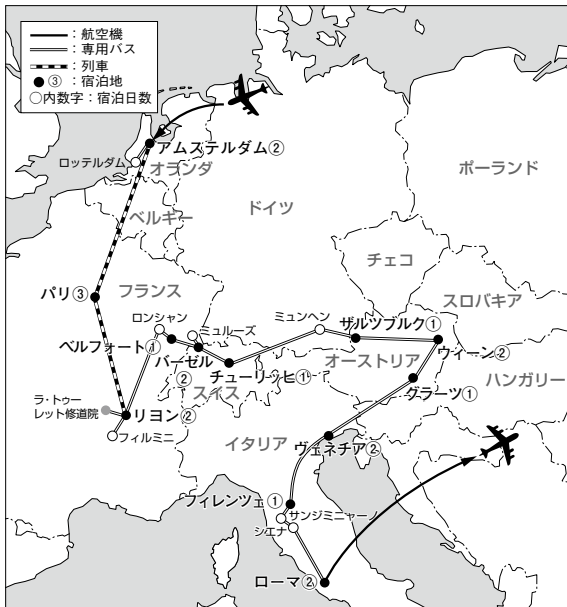
3週間前後の日程でヨーロッパ諸国を巡る旅となり、どちらのコースもとても濃い内容となりました。研修旅行の概要や内容は参加学生のレポートなどで報告したい

と思います。

有名な建築物を実際に見ることで、何か感じるがあったのではないかと思います。研修旅行に参加した学生は、この体験を今後の学生生活に活かしてほしいと思います。

（中田善久・准教授）

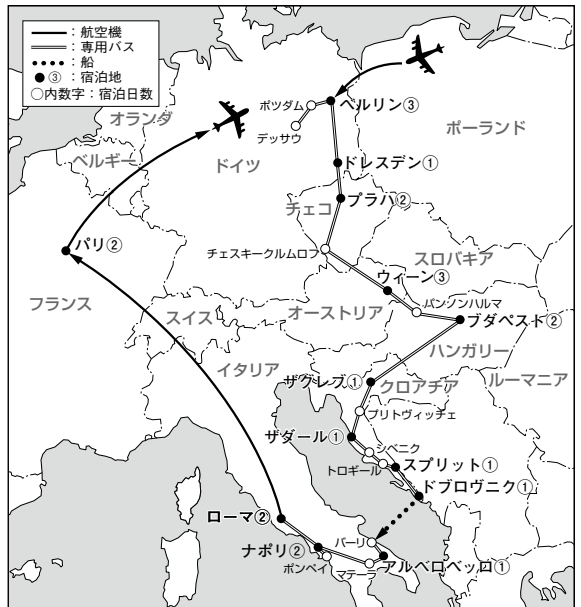
Aコース 欧州縦断



サヴォア邸にて（Aコース）

〈同行教員〉 中田善久准教授、山中新太郎助教
 〈参加学生〉 赤津成紀、秋月孝文、池上晃司、井澤 享、石井尚子、磯崎達也、小佐野奈々、菅野めぐみ、久保田英樹、黒田紗矢、河野麻理、駒井友香、今野和仁、坂下 光、島田直道、新城雄史、菅原広大、鈴木大志、瀬戸基聡、銭葉 菡、高野真由美、高橋功一、土川菜々子、永嶋竜一、中野佑香、西島慧子、西山貴彦、根本亮佑、野村雄一郎、藤井悠子、藤岡寛司、増田文佳、三平奏子、三宅美奈子、茂木香織、森田有貴、森山賢一、山川慧子、渡邊千夏 以上39名

Bコース ヨーロッパの街並み・環境・建築へ 中央・東ヨーロッパの世界遺産と建築



チェスキークルムロフにて（Bコース）

〈同行教員〉 山崎誠子助教、長谷川洋平助手
 〈参加学生〉 秋山洋輔、大出桃子、大仲勇樹、賀上寛之、柏崎 修、加藤悠大、川鍋充範、小池瑠美、小泉絵里奈、越川 傑、小林遼平、小和田俊也、齋藤菜織子、阪本一生、佐久間悠治、島田梨瑛、神保寿弥、平 拓人、平亮太郎、長澤智恵子、長谷川友樹、原田早矢香、原田典明、久田梨紗、平川みなみ、洪 淑婷、正井芳奈、松岡亜也加、松田歩弓、三角奈津紀、村山寛子、森本千早、安水瑠里、山田剛平、米田真帆、若園基記、渡邊菜々子 以上37名

ヨーロッパ

池上晃司（3年）

ヨーロッパというのはもちろん写真やテレビ、雑誌、インターネットで見たことがあった。かつていい現代建築に歴史的な街並み。自分の中で、これはヤバイ！こんな風に設計してみたい！という感覚が溢れ、見たり聞いただけで知った風に、満足したようになっていた自分が壊される。それが研修旅行。先生に初歩的な質問をして説教をされる。友人と意見交換して、自分にはない視点に驚く。そんな毎日を繰り返していくうちに今までとは違う視点が生まれて、どんどん「建築という世界」にのめり込んでいく。奇抜な形態や派手な色彩にばかり気をとられている自分に気づいて喝を入れてくれる先生や、MVRDVやヘルツォークの建築などで一緒にテンションが上がっていく先生と、一緒に異国を歩きカルチャーショックを味わう。バスから見えた名前も知らない建築物や土地の空気感に感動し、早く日本で自身の五感で感じた感覚で「設計」したい気持ちでいっぱいになる。こんな気持ちで溢れたヨーロッパだった。日本より遥かに厳しい景観法や違いすぎる文化、優れたデザインの中で多くの友人と先輩、先生方と過ごす3週間というのは、これからの建築人生にとってこの上ない経験になったと思う。



友人と

疾風怒涛の日々

茂木香織（3年）

わずか3週間の旅の間に私はどれほど多くの発見をし、感動を味わっただろう。帰国から1ヵ月経った今も旅の記憶は鮮やかで、時折写真やスケッチを見ながら感慨にふけることがあります。

今まで本の中の世界だったことが、自分の目で見ることで「現実」となり、実際に触れたもの（建物の壁のざらっとした質感など）は感触として私に残りました。残った感覚はとても大切なもので、帰ってからあの壁はもっと黒くなったかなとか、周りの草木は伸びたかなとか、すぐくリアリティをもって想像できることがとても嬉しいです。

海外研修旅行は建物に出会うだけでなく、仲間や現地

の人とのふれあいがとても貴重な思い出となりました。仲間と夜にゲームしながらお酒を飲んで騒いだり、スケッチをしている私に言葉は通じないけれど話しかけてくれた人がたくさんいたり、同じように見物に来た日本人に出会ったり……。引率の山中さん、中田さん、ガイドの山本さん、そしてAコースの仲間みんなにとっても感謝しています。

このような機会は二度とないと思いますが、この経験を糧として今やこれからを充実させることができると思っています。



スケッチ：ペルージュ

建築に触れる

野村雄一郎（3年）

オランダのアムステルダムから始まり、周辺諸国を回りながらイタリアのローマで終わるという22日間の今回の旅は、ハードながらも有意義なものであった。有名建築の成り立ちや、それを取り巻く環境を体感したことで、これまで自分の中にあつた建築が、その場所の歴史や文化と融合、調和したものであるべきだということを、再認識させることとなった。

今回の旅行の楽しみは、一般見学では見ることでできない個所に立ち入らせてもらえるということであった。

コルビュジエのロンシャン教会——私が今回の旅行で二つあるコースのうち、こちらを選んだ理由だ。写真や文章では伝わらない、伝わりにくいものが建築には存在する。私はどうしてもそれを見たいと思った。その独特な形状と採光の作り出す内部空間がどういったものなのか、とても興味があった。そして、プランやパースからは分からない雰囲気は確かにそこにあった。偶然ミサの練習が行われていた。なんと幸運なことか。この建築の本来の姿を捉えることができたことに喜びを感じた。

実際に触れることでどれだけ認識が変わるか。その大切なことを、この旅行を通して改めて実感した。



ロンシャン教会

毎日が感動の22日間

河野麻理（3年）

どうしても行きたかったこの研修旅行。始めは興味と観光気分と海外というものに惹かれていた部分が大きかったです。けれど、もっともっと良い経験ができました。精神面でも建築面でも。私は正直、周りより建築の知識も興味も浅い方だったと思います。でも、本当にこの旅行でいろいろと刺激を受け過ぎて、興奮は冷めないままです。

正直、日本の建築さえも深く知らないのに海外に行くなんて……そんなセリフは負け惜しみでした。視野が広がり、どの国、どの都市の建築も私にはすごい経験で、大声を上げすぎて、先生や美術館の人たちに注意されたのは数えきれないほどです。

でも、心の中では我慢はできないほどのものでした。国によって建物は本当に違い、国らしさが出ていて、これは写真ではなく実際に体験することで学ぶものだと思います。写真では表せない。文字でも表せません。

建築は自分らしくて良いのだと、楽しんでやろうとやっと思えることができ、これからの学び方に大きな変化をもたらしてくれました。この旅行に参加でき、学び方、考え方も変わり、今後に関わる私の建築観も変えてくれるきっかけをくれた両親に感謝しています。ありがとう。



スイスの景色とともに……

「私、スイス、ズントー。」

西島慧子（3年）

海外研修旅行は、体感することの大切さと素晴らしいさを感じる旅でした。とくに記憶に残っているのが、スイスの山間のピーター・ズントーによる温泉施設です。1年生の時からズントーのシャープでかっこいいこの建築に憧れていたのが、本当に行けることが夢のようでした。そもそもこの建築はスイスの奥地にあり、バスで片道4時間かかるので、一般の観光客は訪れず、研修旅行でも始めはプランに載っていなかったところでした。出発前に各自行きたい場所をプレゼンした際、先生と皆を説得し、行けることになりました。海外旅行で温泉に入れるとは思いませんでしたし、スイスの壮大な景色の中でゆったりと旅の疲れを癒すのは最高でした。写真や本で知っているズントー建築のシャープな外観とは違い、内部空間

は神秘的で、淡い光と温泉のぬくもりで素晴らしいものがありました。写真や本では分からない建物の空間や世界観を知ることができました。また体感するという点では、私の旅の目的は本場の美味しいものを食べることでした。食事はもちろん美味しかったのですが、言葉の通じない欧州の人たちと、街の空気を感じながら食べる楽しさといった美味しさにも感動した旅でした。



ウィーンにて友人たちとカフェ

与えられた言葉は、いつだって退屈で眠たいものばかりだった。

秋月孝文（M1）

ちょうど1年前に本を通して、古典から近代までの建築様式の流れをトレースした。そして今回身体を通してトレースし直す機会を得た。結果を先に言う。この二つのトレースは面白いくらい一致しなかった。

こんなことを思うことがある。言葉にすること、あるいは名前を付けることによって、概念が実体化し、生まれる対話がある。その反面で失われること、捨てていることもかなりあるんじゃないかって。それは歴史の記述にも同じことがいえて、あらかじめ目的があって歴史は作られる。解りやすさを得るために省略されることの多さよ。与えられた言葉（歴史）を捨てて、自分の言葉で翻訳し直さなくてはいけない。そんな気がした。

本当に良い建築は必然性を持ち続けていると実感した。それは時代が生みだし、人々に使われ続けることで生まれる。「藝術や建築の主体は作る側にない。場所や状況の声に呼応して生まれる。（玉井夕海）」

A. ベレのル・ランシー教会堂は良かった。教会としては小さく、中心性も強くない。街中にぼつんと建つ。コンクリ打放しの粗野な外観だが、内部に入ると空気の重さが変わる。壁を感じさせない軽さ。独特の緊張感が街の人を包み込んでいた。



オーギュスト・ペレ ル・ランシーの教会堂

海外で気づいたこと

小和田俊也（4年）

25日間はとても短く感じる時間であり、少ない建築の知識や想像が通用しない世界がそこには広がり、すべてが新鮮に感じられ、見るものに圧倒され続けた日々であった。また各国で見られた落書き、ナポリのゴミ問題など知らなければならない事実もたくさんあった。この研修旅行の中でたびたび、ふと日本人である自分が日本について無知であることに気づかされた。いや、すべてにおいて無知なのだ。自分が何者であるかもきっと知らない。大切なのは研修旅行の25日間よりも今後の生き方において、海外での体験を生かすも殺すも自分次第なのだ。後悔は後からしかできない。今を強く歩む。



武器庫を改修したレストラン in クロアチア

ヨーロッパ研修旅行を終えて

平 亮太郎（4年）

海外研修旅行での25日間は、自分にとってとても貴重な刺激的な体験をした25日間だった。

ヨーロッパの文化や習慣を肌で感じ、また本や映像でしか見たことがなかった有名建築家のさまざまな作品や歴史のある建築を実際に見て、触れて、感じたことは決して忘れられないものになった。

中でもル・コルビュジエ設計のサヴォア邸はコルビュジエの建築のすべてが詰まっている作品といっても過言ではなく、本当に素晴らしいものだった。

また今回の旅行では建築物だけでなくランドスケープの観点から都市の街並みや緑化、整備、広場の計画など普段とちょっと違う視点から見学できたことは自分にとってとてもプラスになるものだった。



サヴォア邸

『2008年、夏。』

越川 傑（3年）

「研修旅行に参加して本当に良かった。また行きたい。」誰もが口をそろえて言う。建築、自然、歴史、文化、友人との冒険、独力への挑戦、そのどれもが鮮やかに突き刺さり、今もなお、僕らの心は躍る。

9月17日、晴れ。専用バスで空港に向かう途中、1枚の紙が配られた。バスの前方から感嘆のため息が聞こえ、すぐにバス全体へと広がった。それは中欧の地図で、僕らの歩んだ旅路が蛍光ペンで光っていた。皆思い思いに紙を見つめ、また指でなぞった。思いがけないプレゼントの主は、記憶の旅でさえ軽やかに誘導する添乗員、笠原さんだ。僕は頭の中に描いた。自分勝手に歩き回り、写真を撮る。

今また遠くで集合の音が聞こえた。その声に僕は続いて一。



Mont Saint=Michel にて、バスへと向かう一行

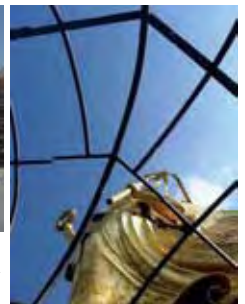
体験すること・気づくこと

長谷川友樹（3年）

今回の研修旅行で良かったことは、とてもたくさんあります。中でも一番大きいのは“実体験”ができたということです。コロッセオやポンピドゥーセンターなどの有名建築や、クロアチアやウィーンなどの街並みを、自分の目で見ることで実際のヴォリュームや空間の認知ができ、歩くことで平面構成や街の雰囲気を理解でき、さらに、ヨーロッパの空気や日本との違いも肌で感じる事ができました。この旅行で実際に見たり感じたり聞いたりしたことは、自分の成長に大きく役立っていくと思います。この旅行が終わった後、またすぐにヨーロッパに行きたいと感じました。それは、勉強になったと感じただけでなく、友達や先生と毎日新鮮な体験ができ、とても楽しく過ごせたからだと思います。



(左) アルペロベッコ



(右) ジーゲスゾイレ(戦勝記念塔/ドイツ・ベルリン)

成長するきっかけの旅

安水瑠里（3年）

25日間の海外研修はとても短く、とても濃いものでした。次から次へと国を渡り、いろいろなお金と文化に触れて、日本との違いを肌で感じる事ができました。あまりの違いに初めは動揺しましたが、意外と素直に現地の文化に順応できることに驚きました。ヨーロッパの街並みはどこを見ても美しく、とても写真に収めきれませんでした。

ヨーロッパに研修に訪れたことは私を一回りも二回りも成長させてくれ、掛替えのない経験になりました。やはり、経験するということは人間を成長させるためのきっかけとして、とても重要なことなのだと改めて実感しました。この旅行で私に成長するきっかけを与えてくださった大学の先生方、JTBの皆さん、両親に現地の皆さん、すべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。



パリの夜景

自分発見の旅

渡邊菜々子（3年）

私がこの旅行で一番感じたことは「印象」である。どの国、街へ行っても、最初に思っていた印象とは違うものがあつた。その場に着いた瞬間に思ったことというのは結構忘れてしまうので、できるだけノートにメモをし、毎日の日記の中で「印象」を書くようにした。後々読んでみると、自分が思っていたことが分かるのがとても面白い。国ごとに建物の雰囲気が変わっていることに気づいていたり、日本との違いを自分流で解決していたり、知識がなすすぎる自分にビックリしていたりと、旅行中の私は何に対しても感動していた。この旅行は、もちろん建築のことをたくさん勉強した旅行だったが、それ以上に自分に足りないものを発見した旅行でもあつた。



ドブロヴニク

研修旅行を経て

三角奈津紀（2年）

今回の海外研修旅行は、本や映像でしか見たことのない歴史的な建物や街並みのもつ雰囲気を感じることができ、自分にとって非常に貴重な経験となりました。

各都市で共通して印象的だったのは、街並みの統一された美しさです。さまざまな歴史を経て、建築が街や人と相互の関係を築き、街全体が一つの建築のように存在していることに深く感動しました。とくにドレスデンのフラウエン教会は、戦争による崩壊の後、「敵対心の克服、和解と希望の象徴」として無数の個人、民間団体からの寄付により再建され、その外観に古傷を残し存在する姿には、この建築を生かした人々の想いの温かさを感じました。旅行で与えられた多くの刺激により、自分の中で建築に対して新しい視点が生まれ、とても勉強になりました。



ドレスデンの街並み

印象的な街並み・世界遺産

若園基記（2年）

海外研修旅行に参加して、多くの世界遺産、環境を見学し、直に体験することができた。時には各国の風土、習慣に困惑することもあつたが、それもとても良い経験だった。

ドイツ、ベルリンで自然環境を都市部に引き込み、街を蘇生させる環境デザインを体験し、どこを歩いても必ず緑があり、都市中心部でありながら大きな公園にいるような感覚に陥る。その後、プラハではキュビズム建築、ウィーンではシェーンブルン宮殿の庭園に触れることができた。中でも印象に残っているのがクロアチアである。世界自然遺産のプリトヴィツェ国立公園にある、日照角度によって紺青や紺碧などさまざまな色を変化させる湖群、スプリットのローマ皇帝の宮殿跡と歴史的建造物、ドブロヴニクの城壁から見るオレンジ色の街並みが印象的であった。



ドブロヴニク

オリエンテーション報告

川島和彦



お台場 (Eコース)

建築学科2年生を対象としたオリエンテーションが6月21日(土)に実施されました。例年行われているこの企画は、建築学科で専門的な学修を本格的に始めた2年生を対象に、建築・都市を実際に見学することを通じて、よりリアルに勉強してもらおうとともに、建築学科教員との親睦を深めるために行われているものです。企画された9コースは、先生方がそれぞれコースや見学先を考えたもので各先生の専門が活かされたものとなっており、最近話題となっている建築物、歴史的建造物や街並み、公園、再開発の現場……とバラエティに富んだものとなりました。A～Fコースは貸切バスを利用し、G～Iコースは公共交通機関を利用するコースで、2年生はいずれかのコースに参加しました。

当日はあいにくの小雨模様となりましたが(コースによっては晴れ間もあったようです)、2年生たちは各コースにおいて、OBの方々や現地の方々、そして教員による説明に耳を傾け、そして実際の建築・都市空間を楽しんでいました。また、これまであまり接点のなかった先生方と話し、ふれあう姿も見られました。普段の授業とは異なる経験から学ぶこと・感じたことはたくさんあったものと思います。

わずか1日でしたが、今回のオリエンテーションを通じて皆さんが得たことを、今後の学修に役立ててほしいと思います。

(2年クラス担任・かわしまかずひこ・専任講師)

<p>Aコース『環境×建築の作品・技術を体感しよう』 環境共生集合住宅・グローブコート大宮南、環境建築・Hondaと光ビル、国立保健医療科学院環境棟 井上勝夫、半貫敏夫、富田隆太</p>
<p>Bコース『デザインとエコロジーをめぐるキャンパスツアー'08』 日本大学生物資源科学部、神奈川工科大学 KAIT 工房、東京モード学園コクーンタワー 岡田 章、宮里直也、永井佑季、斎藤公男名誉教授</p>
<p>Cコース『川越の街並と建築を探访する』 蔵の町、川越織物市場、喜多院など 片桐正夫、大川三雄、重枝 豊</p>
<p>Dコース『近郊にある最近の話題作をめぐる』 ふじようちえん、国営昭和記念公園緑の文化ゾーンなど 関口克明、渡辺富雄、宇杉和夫、八藤後 猛</p>
<p>Eコース『歴史的まちなみから東京臨海部の開発まで』 佐原の歴史的まちなみ、葛西臨海公園、東京臨海部(海上から) 根上彰生、三橋博巳、宇崎崎勝也、柳田 武、川島和彦</p>
<p>Fコース『ぐんま 美術館見学』 群馬県立近代美術館、ハラミュージアムアーク 佐藤慎也、梅田 綾</p>
<p>Gコース『身近な街・お茶の水、湯島、水道橋を巡る』 ニコライ堂、聖橋、湯島聖堂、神田明神、湯島天神、旧岩崎邸、センチュリータワー、東京ドーム & 東京ドームホテル、懇親会 安達俊夫、白井伸明、山田雅一、田嶋和樹</p>
<p>Hコース『設備工事を中心とした現場見学と展示場見学』 大手町一丁目地区第一種市街地再開発事業・B工区建設工事(37階建て)、東京国際フォーラム 早川 眞</p>
<p>Iコース『体感! 実感! 作業所見学!』 —ものづくりの現場にOBを訪ねてみよう— 江戸東京たてもの園、日本大学櫻丘高等学校新校舎新築工事 中田善久</p>



昼食時間 (Fコース)



神田明神 (Gコース)



日本大学櫻丘高等学校新校舎新築工事現場(Iコース)

2008 年度 日本建築学会大会 (中国)

建築学科教室関係者発表論文リスト

○印 発表者

材料施工

1082 溶融スラグ細骨材の左官用モルタルへの適用に関する基礎的研究 その7 材齢1年における溶融スラグ細骨材を用いたモルタルの強度性状 ○坂本 亮 (日本大大学院)・中田善久・松井 勇・高橋宏樹・伊藤 学・田辺英男・斉藤丈士・鈴木大介

1374 吸水速度に基づく高強度コンクリートの調合・強度の推定に関する研究 ○清水五郎 (日本大)・中田善久・久保田英樹・春山信人

1375 グルコン酸ナトリウムによる硬化コンクリートの単位セメント量試験方法に関する一考察 中庸熱セメントおよび低熱セメントを用いた高強度コンクリートに関する検討 ○須藤絵美 (内山アドバンス)・中田善久・笠井芳夫

1446 セパレータの間隔を考慮したせき板の曲げ剛性に関する検討 せき板の構成材料の違いがコンクリート表面の仕上がり平たんさに及ぼす影響 ○吉田雪乃 (ものづくり大)・久保田英樹・中田善久・毛見虎雄・大塚秀三・清水五郎・大木崇輔

1458 ブームの姿勢の違いによるポンプ圧送性と安全性に関する一考察 ○染谷直己 (西松建設)・岡本圭市・中田善久・毛見虎雄・大塚秀三

1509 セメントペーストと細骨材の構成割合を変えた高強度コンクリートの性状に関する研究 その1 コンクリートの調合と高性能 AE 減水剤の使用量 ○斉藤丈士 (内山城南コンクリート工業)・中田善久・女屋英明・春山信人・大塚秀三・田村裕介・關 裕司

1510 セメントペーストと細骨材の構成割合を変えた高強度コンクリートの性状に関する研究 その2 スランプ・スランプフローの経時変化およびコンクリートの凝結時間 ○女屋英明 (内山城南コンクリート工業)・中田善久・斉藤丈士・春山信人・大塚秀三・田村裕介・關 裕司

1511 セメントペーストと細骨材の構成割合を変えた高強度コンクリートの性状に関する研究 その3 プリーディング、加圧プリーディングおよびふるい通過率 ○春山信人 (フジミ工研)・中田善久・斉藤丈士・女屋英明・大塚秀三・田村裕介・關 裕司

1512 セメントペーストと細骨材の構成割合を変えた高強度コンクリートの性状に関する研究 その4 圧縮強度および静弾性係数 ○田村裕介 (日本大大学院)・中田善久・女屋英明・斉藤丈士・春山信人・大塚秀三・關 裕司

1513 セメントペーストと細骨材の構成割合を変えた高強度コンクリートの性状に関する研究 その5 長さ変化率および促進試験による中性化深さ ○關 裕司 (内山アドバンス)・中田善久・斉藤丈士・女屋英明・春山信人・大塚秀三・田村裕介

1523 養生方法の違いによる高強度コンクリートを用いた

模擬柱部材の強度発現性の検討 その1 実験概要および強度発現性 ○佐々木真宏 (フジミ工研)・久保田英樹・中田善久・春山信人・大塚秀三・清水五郎

1524 養生方法の違いによる高強度コンクリートを用いた模擬柱部材の強度発現性の検討 その2 養生方法の違いがコア供試体の強度発現性に及ぼす影響 ○久保田英樹 (日本大大学院)・佐々木真宏・中田善久・春山信人・大塚秀三・清水五郎

1525 高強度コンクリートを用いた模擬柱部材のコア強度に関する検討 その1 実験概要および検討方針 ○大塚秀三 (ものづくり大)・高橋和哉・中田善久・森本和雅・大木崇輔・毛見虎雄

1526 高強度コンクリートを用いた模擬柱部材のコア強度に関する検討 その2 コア採取位置および採取方向によるコア強度の分布 ○大木崇輔 (ものづくり大)・高橋和哉・中田善久・森本和雅・大塚秀三・毛見虎雄

1527 高強度コンクリートを用いた模擬柱部材のコア強度に関する検討 その3 打込み面からの深さがコア強度に及ぼす影響 ○高橋和哉 (奥村組)・大木崇輔・中田善久・森本和雅・大塚秀三・毛見虎雄

1528 高強度コンクリートを用いた模擬柱部材のコア強度に関する検討 その4 コア供試体の直径および穿孔角度による影響 ○森本和雅 (ものづくり大)・大木崇輔・中田善久・高橋和哉・大塚秀三・毛見虎雄

1529 各種要因が高強度コンクリートを用いた模擬柱部材のコア強度に及ぼす影響 その2 部材内の高さ方向におけるコア強度の検討 ○中田善久 (日本大)・平野 学・大木崇輔・毛見虎雄・大塚秀三

1531 異形鉄筋を含んだ高強度コンクリートコアの力学的特性に関する検討 その4 異形鉄筋の容積および径の違いがコア強度に及ぼす影響 ○森田鉄也 (三友エンジニアリング)・中田善久・大塚秀三・大木崇輔・平野 学・毛見虎雄

1532 異形鉄筋を含んだ高強度コンクリートコアの力学的特性に関する検討 その5 セメントの種類の違いによる影響 ○平野 学 (ものづくり大)・大木崇輔・中田善久・森田哲也・大塚秀三・毛見虎雄

1543 高強度コンクリートのポンプ圧送前後の品質変化に関する研究 その2 文献調査による圧送前後の品質変化 ○藤井和俊 (日本大)・岡本圭市・中田善久・染谷直己・大塚秀三・毛見虎雄

1595 戻りコンクリートを再利用したポンプ圧送用モルタルの実用化に関する研究 その13 戻りコンクリートの発生量と再生モルタルの適用性の検討 (II) ○湯本哲也 (和田砂利商会)・小宮正夫・和田平作・小宮政光・高橋俊夫・福島圭一・高野 肇・中田善久・毛見虎雄・大塚秀三

1596 戻りコンクリートを再利用したポンプ圧送用モルタルの実用化に関する研究 その14 環境温度、経過時間の差が再生モルタルの品質に及ぼす影響 ○福島圭一(和田砂利商会)・小宮正夫・和田平作・小宮政光・高橋俊夫・湯本哲也・女屋英明・中田善久・毛見虎雄・大塚秀三

1597 戻りコンクリートを再利用したポンプ圧送用モルタルの実用化に関する研究 その15 化学混和剤の違いが再生モルタルの品質に及ぼす影響 ○小田英樹(山宗化学)・小宮正夫・和田平作・小宮政光・高橋俊夫・女屋英明・中田善久・毛見虎雄・緑川雅之・大塚秀三

構造 I, II, III, IV

20030 高床式建物の高床構造と吹きだまりの関係に関する実験的研究 その1 列柱式高床構造の充実率と吹きだまり性状に関する考察 ○佐藤泰春(日本大)・桑野克彰・半貫敏夫

20031 高床式建物の高床構造と吹きだまりの関係に関する実験的研究 その2 トラス式高床構造の構面数が吹きだまりに与える影響 ○桑野克彰(ピーディーシステム)・佐藤泰春・半貫敏夫

20226 小規模建築物の地盤補強に用いる杭工法に関する検証(その3) ○田代郁夫(住友林業)・佐藤 隆・塩沢伸明・安達俊夫

20227 小規模建築物の地盤補強に用いる杭工法に関する検証(その4) ○山本典雅(住友林業)・佐藤 隆・塩沢伸明・安達俊夫

20243 テーパー杭を用いた併用基礎に関する研究 その1 載荷実験概要 ○佐藤 隆(住友林業)・塩沢伸明・安達俊夫

20244 テーパー杭を用いた併用基礎に関する研究 その2 載荷実験結果 ○塩沢伸明(住友林業)・佐藤 隆・安達俊夫

20270 木片チップー混合物ーアスファルト系混合体の振動特性に関する実験研究 ○川村政史(日本大)・酒匂教明・下村幸男

20274 改良地盤上に支持された基礎ブロックの起振実験 その9 実大構造物の地震応答低減効果に対する解析的検討 ○下村幸男(日本大短大)・池田能夫・川村政史・石丸辰治

20325 セメント系砂質改良土の強度・変形特性 その13 長期材齢におけるせん断強度の評価 ○太田 宏(日本大)・山田雅一・安達俊夫

20326 セメント系砂質改良土の強度・変形特性 その14 なじりせん断強度と三軸圧縮強度の関係 ○山田雅一(日本大)・安達俊夫

20359 サブストラクチャ・オンライン応答実験による建物と地盤の動的相互作用に関する研究 入力地震動が液状化地盤の動的相互作用に与える影響 ○軽部宏紀(日本大)・安達俊夫・田口智也

20377 格子で構成された擬似 HP 曲面の構造特性に関する基礎的研究 その1 格子で構成された擬似 HP 曲面の提案と製作 ○橋本明子(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・藤原圭吾

20378 格子で構成された擬似 HP 曲面の構造特性に関する基礎的研究 その2 基本的構造特性の把握と連続体曲面との比較 ○藤原圭吾(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・橋本明子

20391 構造デザインの潮流と現況 その1 構造デザインの歴史の変遷 ○篠崎 淳(日本大)・岡田 章・斎藤公男・宮里

直也・藤木瑛子

20392 構造デザインの潮流と現況 その2 イメージとテクノロジーの二つの視座による設計アプローチの比較 ○藤木瑛子(新建築社)・岡田 章・斎藤公男・宮里直也

20463 ETFE フィルムの張力膜構造への適用性に関する基礎的研究 その1 応力弛緩特性の把握と解析モデルの提案 ○水野公義(新日鉄エンジニアリング)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・川又哲也

20464 ETFE フィルムの張力膜構造への適用性に関する基礎的研究 その2 実大規模の曲面形成実験 ○梅原智洋(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・水野公義・川又哲也

20465 ETFE フィルムの張力膜構造への適用性に関する基礎的研究 その3 ばねストラット式張力膜の構造挙動について ○川又哲也(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・水野公義

20472 連結したホルン型張力膜屋根の設計と施工 実構造物の施工時の挙動及び屋根工事後の長期測定 ○赤岩英和(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也

20476 連結したホルン型張力膜屋根に関する基礎的研究 その1 風洞実験に基づく風荷重評価 ○永井佑季(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・小野 晋

20477 連結したホルン型張力膜屋根に関する基礎的研究 その2 数値解析による風荷重時の基本応答性状の把握 ○小野 晋(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・永井佑季

20478 連結したホルン型張力膜屋根に関する基礎的研究 その3 柔模型を用いた風洞実験 ○福田隆徳(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・永井佑季・小野 晋

20480 メンブレン式切頂二十面体の基本的構造特性に関する研究 その1 膜材付加の効果と仮設空間への適用性について ○竹内義典(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・森山卓也

20481 メンブレン式切頂二十面体の基本的構造特性に関する研究 その2 基本的構造性能の把握 ○森山卓也(竹中工務店)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・竹内義典

20482 メンブレン式切頂二十面体の基本的構造特性に関する研究 その3 膜パネル構法の提案と力学特性について ○山田達也(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・森山卓也・竹内義典

20487 ガラス吊屋根構造の構造特性に関する基礎的研究 その1 風洞実験による検討 ○西山明宏(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・大森慎司

20488 ガラス吊屋根構造の構造特性に関する基礎的研究 その2 解析的検討 ○大森慎司(大成建設)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・西山明宏

20489 ケーブル端部金物の設計手法に関する基礎的研究 その1 フォークエンド金物の設計手法の現状と基本力学性状の把握 ○落合涼子(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・柴山裕則

20490 ケーブル端部金物の設計手法に関する基礎的研究 その2 アイエンド金物とフォークエンド金物の耐力に関する研究 ○柴山裕則(松田平田設計)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・落合涼子

20493 張弦シザース構造の壁面構造体への適用性に関する基礎的研究 その1 基本的構造特性の把握 ○竹本孝輔(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・藤川英哲

20494 張弦シザース構造の壁面構造体への適用性に関する基礎的研究 その2 実大規模への適用性の検討 ○藤川英哲(フジタ)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・竹本孝輔

20498 張弦梁構造の座屈性状に関する研究 その1 実験および数値解析概要 ○中島 肇(清水建設)・内山 学・西谷隆之・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・加藤千博・北 茂紀

20499 張弦梁構造の座屈性状に関する研究 その2 梁形状および剛性比の影響について ○北 茂紀(日本大大学院)・加藤千博・中島 肇・内山 学・西谷隆之・斎藤公男・岡田 章・宮里直也

20500 張弦梁構造の座屈性状に関する研究 その3 境界条件の影響および数値解析との比較 ○加藤千博(日本大大学院)・中島 肇・内山 学・西谷隆之・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・北 茂紀

20501 スtring式環状片持架構の構造特性に関する基礎的研究 その1 構造システムの提案とメカニズムの把握 ○河野俊作(日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・高橋厚人

20502 スtring式環状片持架構の構造特性に関する基礎的研究 その2 PSレベルを考慮した試設計 ○高橋厚人(日立建設設計)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・河野俊作

21052 ダイナミック・マスを利用した構造設計について その1 複素固有値解析による系の特性の抽出 ○石丸辰治(日本大)・古橋 剛・秦 一平・三上淳治

21053 ダイナミック・マスを利用した構造設計について その2 モーダルアナリシスによる応答解析の精度について ○三上淳治(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平

21316 DM(ダイナミック・マス)要素を利用したBMDシステムに関する基礎的研究 その1 DM効果を考慮したBMD設計法 ○牧 良太(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平・宮島洋平・小山 翔

21317 DM(ダイナミック・マス)要素を利用したBMDシステムに関する基礎的研究 その2 試験体による実験と理論の検証 ○小山 翔(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平・宮島洋平・牧 良太

21395 学校施設における災害時の情報伝達システムの確保に関する研究 その7 大学生の防災意識についての調査 ○酒匂教明(日本大)・安達 洋・安達俊夫・木原雅巳・井上文雄・登川幸生・田嶋和樹・大東宗幸

21396 学校施設における災害時の情報伝達システムの確保に関する研究 その8 新潟県中越沖地震時の災害情報の事例調査 ○大東宗幸(日本大)・安達 洋・安達俊夫・木原雅巳・井上文雄・登川幸生・酒匂教明・田嶋和樹

21400 Webサイトを利用した地震防災情報配信システムに関する基礎的研究 システムの概要とその活用方法 ○大野勝亮(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平

22383 低層鋼構造物における地震入力エネルギーと柱脚最大回転角 ○柳田佳伸(日本大)・半貫敏夫・秋山 宏

22524 実大鋼構造柱梁接合部の延性破壊—脆性破壊遷移実験 その5 単純化構造モデルによる実大試験概要 ○小中孔明(日本大)・新井佑一郎・半貫敏夫・秋山 宏

22525 実大鋼構造柱梁接合部の延性破壊—脆性破壊遷移実験 その6 単純化構造モデルによる接合部破壊実験結果 ○新井佑一郎(日本大)・小中孔明・半貫敏夫・秋山 宏

23084 グラウト代替材としての繊維補強モルタルの開発と性能評価実験 その1 繊維補強モルタルの調合設計 ○宮

崎 紘光(清水建設)・國本拓也・増田久美子・田嶋和樹・白井伸明・横内 基・北嶋圭二

23085 グラウト代替材としての繊維補強モルタルの開発と性能評価実験 その2 コンクリート—繊維補強モルタル間におけるせん断挙動 ○國本拓也(日本大大学院)・宮崎 紘光・増田久美子・田嶋和樹・白井伸明・横内 基・北嶋圭二

23086 グラウト代替材としての繊維補強モルタルの開発と性能評価実験 その3 鋼板—繊維補強モルタル間におけるせん断挙動 ○増田久美子(日本大大学院)・宮崎 紘光・國本拓也・田嶋和樹・白井伸明・横内 基・北嶋圭二

23104 3次元FEMによるRC造骨組の弾塑性ねじれ挙動の評価 その1 地震動を受けるRC造偏心骨組の3次元FEM解析 ○橋本 浩(竹中工務店)・安達一喜・田嶋和樹・白井伸明

23105 3次元FEMによるRC造骨組の弾塑性ねじれ挙動の評価 その2 耐力偏心をパラメータとした仮想骨組の静的解析 ○安達一喜(日本大大学院)・橋本 浩・田嶋和樹・白井伸明

23206 開孔補強筋使用のRC造有孔梁のせん断性状に関する実験研究 その1 実験概要・開孔補強筋偏在配置による破壊性状への影響 ○若林和義(建材試験センター)・青田知己・香取慶一・三橋博巳

23207 開孔補強筋使用のRC造有孔梁のせん断性状に関する実験研究 その2 既往の実験結果との比較・開孔補強筋偏在配置による歪性状への影響 ○青田知己(元東京工業大)・若林和義・香取慶一・三橋博巳

23227 画像計測法を用いた鉄筋コンクリート造柱部材の残存耐震性能評価 その1 実験概要および画像取得方法 ○尾崎英介(日本大大学院)・今井 究・石森昭行・田嶋和樹・白井伸明

23228 画像計測に基づく鉄筋コンクリート造柱部材の残存耐震性能評価 その2 変形成分の分離方法 ○今井 究(日本大大学院)・尾崎英介・石森昭行・田嶋和樹・白井伸明

23229 画像計測に基づく鉄筋コンクリート造柱部材の残存耐震性能評価 その3 ひび割れ幅に基づく残存耐震性能評価 ○石森昭行(鹿島建設)・尾崎英介・今井 究・田嶋和樹・白井伸明

環境工学 I, II

40066 身体障害者の温熱環境に関する研究XVIII 頸髄損傷者の体温調節機能の特性 その2 ○三上功生(東京理科大)・青木和夫・蜂巣浩生・武田 仁

40081 床下空気層の密閉度合の変化がスラブ振動に及ぼす影響 乾式二重床における床衝撃音発生系の検討 その1 ○稲留康一(奥村組)・井上勝夫・富田隆太・奥村晃史

40082 床下空気加振がスラブ振動に与える影響 乾式二重床における床衝撃音発生系の検討 その2 ○奥村晃史(日本大大学院)・稲留康一・井上勝夫・富田隆太

40092 実験室におけるマイクロホン高さ変化が床衝撃音レベル低減量に与える影響について ○阿部恭子(建材試験センター)・平光厚雄・中森俊介・田中 学・高橋 央・安岡博人・井上勝夫

40093 壁式構造試験装置の床衝撃音レベル低減量特性について ○平光厚雄(建築研究所)・中森俊介・阿部恭子・田中 学・高橋 央・安岡博人・井上勝夫

40094 床試験室スラブの振動応答特性と床衝撃音の関係について ○中森俊介(小林理学研究所)・阿部恭子・平光厚雄・

田中 学・高橋 央・安岡博人・井上勝夫

40095 曲げ変形と圧縮変形による歩行時のかたさ感覚の検討 木質系床の変形パターンと歩行感覚に関する研究：その1 ○渡部和良（旭化成ホームズ）・井上勝夫・富田隆太

40096 曲げ変形と圧縮変形が同時におこる場合の歩行時のかたさ感覚 木質系床の変形パターンと歩行感覚に関する研究：その2 ○富田隆太（日本大）・井上勝夫

40097 集合住宅の音環境の満足度変化と説明内容に関する研究 住宅購入時の消費者要求と住宅性能表示制度：その11 ○阿部今日子（日本大大学院）・井上勝夫・大室諒知

40098 集合住宅における上階住戸の家族構成による生活実感の変化に関する研究 住宅購入時の消費者要求と住宅性能表示制度：その12 ○大室諒知（協立建築設計事務所）・井上勝夫・阿部今日子

40099 消費者から見た音環境トラブルの実態と裁判事例の分析 住宅の音環境トラブルの発生原因と司法判断に関する考察 その1 ○高橋菜美（日本大大学院）・井上勝夫・野村奈央

40100 電話相談と判例の相違及び裁判事例の検証 住宅の音環境トラブルの発生原因と司法判断に関する考察 その2 ○野村奈央（元日本大大学院）・井上勝夫・高橋菜美

40129 電気音響拡声時の音声伝達性能についての一考察 ノイズ音場における音声伝達性能評価と拡声音制御法について ○橋本 修（日本大）・大澤邦昭

40133 調剤薬局におけるスピーチプライバシー保護 その1 服薬指導時の会話漏洩の実態調査 ○小山由美（日本大）・星 和磨・羽入敏樹

40134 調剤薬局におけるスピーチプライバシー保護 その2 パーティションおよびサウンドマスキングの効果 ○羽入敏樹（日本大）・星 和磨・小山由美

40137 反射音が話者の「話しやすさ」に及ぼす要因についての考察 ○小林 彩（大建工業）・橋本 修・井上勝夫

40144 歌唱者が演奏空間において知覚する音像と反射音の関係 ○生方秀行（元日本大）・羽入敏樹・関口克明

40145 上方反射音が音場の空間印象に及ぼす影響の基礎的検討 ○佐藤瑠美（日本大）・羽入敏樹・関口克明

40147 カーディオイドマイクを用いた都市騒音のインテンシティ計測 ○稲毛大輔（日東紡音響エンジニアリング）・羽入敏樹・関口克明

40158 カーディオイドマイクを用いた音響インテンシティ計測手法の検証 ○大澄修平（日本大）・星 和磨・羽入敏樹

40178 散乱体と壁面を組合せた音響反射メカニズムに関する基礎的検討 その1 散乱体の吸音が残響生成に及ぼす影響 ○堀尾貞治（AGK 建築音響）・来栖真弓・羽入敏樹・関口克明

40179 散乱体と壁面を組合せた音響反射メカニズムに関する基礎的検討 その2 縮尺音響模型実験による残響壁の検証と室内空間への適用可能性 ○来栖真弓（日本大大学院）・堀尾貞治・羽入敏樹・関口克明

40218 30Hz以上の振動が人の振動感覚に与える影響について 床振動測定用標準衝撃源としてのボールの有用性に関する研究：その3 ○伊東 和（日本大大学院）・井上勝夫・富田隆太・松田 貴

40219 ゴムボール衝撃と人の動作の衝撃力換算による床振動応答加速度の検討 床振動測定用標準衝撃源としてのボールの有用性に関する研究：その4 ○松田 貴（日本大大学院）

井上勝夫・富田隆太・伊東 和

40237 ピクトグラム作成の為に光源色を考慮した色盲の見え予測プログラム ○櫻井久巳（清水建設）・加藤未佳・関口克明

40249 街路構成を反映した明るさ評価に関する研究 ○関口克明（日本大）・加藤未佳

40256 内装材の凹凸と照明手法の違いが空間に求める明るさに与える影響 ○加藤未佳（日本大）・関口克明

40288 スリット状接続構造の電磁シールド性能基準化に関する実験的検討 その8 性能の向上化に関する検討 ○吉野涼二（大成建設）・井上勝夫・三枝健二

40454 外壁線の後退した容積率緩和の高層建物が周辺空気質に及ぼす影響（その2）風洞拡散実験による風向や隣棟間隙間の影響の検討 ○森田英和（日本大）・早川 眞

40475 夏季における公園緑地周辺の温熱環境に関する実測調査 ○松永智弘（日本大大学院）・井上勝夫・富田隆太

40568 中国チベットにおける高原居住環境の実態調査 その1 都市部集合住宅と農村部伝統民居のプランニングとその特徴 ○木下亮佑（日本大）・吉野泰子・関口克明・劉 加平・楊 柳・王 岩・津幡あき

40569 中国チベットにおける高原居住環境の実態調査 その2 都市と農村住宅の紫外線 照度測定結果 ○吉野泰子（日本大）・王 岩・関口克明・劉 加平・楊 柳・木下亮佑・津幡あき

40570 中国チベットにおける高原居住環境の実態調査 その3 都市と農村住宅の温熱 空気 音環境測定結果 ○王 岩（日本大）・吉野泰子・関口克明・劉 加平・楊 柳・木下亮佑・津幡あき

40571 中国チベットにおける高原居住環境の実態調査 その4 住環境に関するアンケート調査結果 ○津幡あき（日本大）・吉野泰子・関口克明・劉 加平・楊 柳・王 岩・木下亮佑

41320 高層建築の自然換気のための壁面風圧均等化の実験 その4 複数階に亘るダブルスキンを持つ矩形建物模型 ○早川 眞（日本大）

41401 単体樹木の防風効果に関する基礎的研究 その1 風洞実験と数値流体解析概要 ○布引英夫（銭高組）・安部 剛・半貫敏夫

41402 単体樹木の防風効果に関する基礎的研究 その2 解析と実験の比較、実スケールでの防風効果の検証 ○安部 剛（銭高組）・布引英夫・半貫敏夫

建築計画 I, II

5015 幼稚園の平面計画と音環境に関するアンケート調査の検討 ○横井雅紀（熊谷組）・井上勝夫・富田隆太

5240 一般開放学校屋内プールの現状について（東京都区部の場合） 地域における公共スポーツ施設に関する研究 その13 ○伊奈亮人（日本大）・渡辺富雄・矢野裕芳

5241 一般開放学校屋内プールの付属関連諸室からみた計画について 地域における公共スポーツ施設に関する研究 その14 ○渡辺富雄（日本大）・篠邊雅仁・矢野裕芳・伊奈亮人

5723 居住地路地空間の構成と評価に関する研究一月島：パッケージシステムについて一 ○千葉智彦（日本大）・宇杉和夫・岡本哲志

都市計画

7074 既成市街地における都市施設整備と地区計画制度の連携手法に関する研究 東京都調布市仙川駅周辺地区を事例として ○山崎正樹 (日本大大学院)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也・川島和彦

7089 「まちづくりガイドライン」に見る大都市都心部のエリアマネジメントの動向に関する研究 ○泉山壘威 (日本大大学院)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也・川島和彦

7093 中国・上海市における軌道交通整備に伴う再開発実態に関する研究・その1 駅周辺地域の土地利用の変化に着目して ○北山 社 (日本大大学院)・山田泰宏・川島和彦・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7094 中国・上海市における軌道交通整備に伴う再開発実態に関する研究・その2 駅周辺地域の商業施設に着目して ○山田泰宏 (日本大大学院)・北山 社・川島和彦・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7125 中心市街地における大型店舗撤退の対応策に関する研究 その1 改正中心市街地活性化法認定都市における大型店舗撤退の概況と分類 ○平田直純 (日本大大学院)・櫻井恵介・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也・川島和彦

7126 中心市街地における大型店舗撤退の対応策に関する研究 その2 大型店舗撤退の再生手法に着目して ○櫻井恵介 (日本大大学院)・平田直純・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也・川島和彦

7248 重要伝統的建造物群保存地区における建物用途の転用に関する研究 岡山県倉敷川畔・千葉県佐原を事例として ○佐藤宣章 (日本大大学院)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也・川島和彦

7386 日本列島の原風景「上町台地・洲島の景観」の景観整備の課題と方法 ○宇杉和夫 (日本大)

7395 原風景を生かした都市生活空間づくりに関する研究 港区三田・芝地区の原風景ヒヤリング ○野老正昭 (野老設計事務所)・宇杉和夫・千葉智彦

7443 栃木市における多様な主体の連携によるまちづくり活動の展開に関する研究・その1 まちづくり活動とその展開の特徴の把握 ○柳澤優行 (日本大大学院)・上野美佳子・川島和彦・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也・本郷寛和

7444 栃木市における多様な主体の連携によるまちづくり活動の展開に関する研究・その2 まちづくり活動の展開の特徴と保存・修景との関係 ○上野美佳子 (日本大大学院)・柳澤優行・川島和彦・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也・本郷寛和

7445 栃木市における多様な主体の連携によるまちづくり活動の展開に関する研究・その3 保存・修景に対する意識向上を促す効果をもつまちづくり活動の展開の特徴 ○本郷寛和 (日本大大学院)・上野美佳子・柳澤優行・川島和彦・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

建築歴史・意匠

9020 16～17世紀における神宮工の系譜について その1 内宮の頭工と頭代 ○浜島一成 (日本大)・片桐正夫

9072 ベトナム北部における寧福寺と崇厳寺の後堂および行廊に関する一考察 ベトナム仏教寺院の総合研究 その15 ○大山亜紀子 (日本大)・重枝 豊・片桐正夫

9076 クメールレンガ造祠堂における砂岩の補強技術と損傷・崩壊の原因に関する一考察 ○チエンラタ (日本大)・片桐

正夫・石澤良昭・重枝 豊・大山亜紀子

9078 イースト・メボンとブレ・ループにおける祠堂の平面の寸法計画について 施工手順からみた10世紀のクメール宗教建築における造営手法の基礎的研究 ○小島陽子 (日本大)・片桐正夫・重枝 豊

9081 王道調査概要と石橋および沿道遺構について一カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査(18)ー ○片桐正夫 (日本大)・石澤良昭・重枝 豊・三輪 悟・大山亜紀子・小島陽子・チエンラタ・長澤紘人・加藤久美子・有川慎一郎・木下洋道・勝原基貴

9082 古代橋に見られる刻み線についての一考察一カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査(19)ー ○加藤久美子 (日本大)・片桐正夫・石澤良昭・重枝 豊・三輪 悟・大山亜紀子・小島陽子・チエンラタ・長澤紘人・有川慎一郎・木下洋道・勝原基貴

9083 アンコール時代の古代橋, Spean Ta Ong と大規模な橋梁について一カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査(20)ー ○木下洋道 (日本大)・片桐正夫・石澤良昭・重枝 豊・三輪 悟・大山亜紀子・小島陽子・チエンラタ・加藤久美子・有川慎一郎・長澤紘人・勝原基貴

9084 Spean Memai の現状報告と立面の相違について一カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査(21)ー ○有川慎一郎 (日本大)・片桐正夫・石澤良昭・重枝 豊・三輪 悟・大山亜紀子・小島陽子・チエンラタ・加藤久美子・木下洋道・長澤紘人・勝原基貴

9085 Prasat Preah Neak Buos の現状報告と調査概要について一カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査(22)ー ○勝原基貴 (日本大)・片桐正夫・石澤良昭・重枝 豊・三輪 悟・大山亜紀子・小島陽子・チエンラタ・長澤紘人・加藤久美子・木下洋道・有川慎一郎

9086 Prasat Preah Neak Buos の伽藍配置計画に関する一考察一カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査(23)ー ○長沢紘人 (日本大)・片桐正夫・石澤良昭・重枝 豊・三輪 悟・大山亜紀子・小島陽子・チエンラタ・加藤久美子・木下洋道・勝原基貴・有川慎一郎

9149 山越邦彦の「構築 構築 (Structurismo)」について 山越邦彦研究・その4 ○梅宮弘光 (神戸大)・矢代真己・大川三雄・野沢正光・堀越哲美

9182 Case Study on Architecture Defense System of City Entrance in Ming Dynasty China Analysis based on Xi'an, Nanjing and Beijing ○王軍 (日本大)・片桐正夫・重枝 豊

9322 前衛手帖『オープン・オオッホ』について ○矢代真己 (日本大)

建築デザイン

14046 BTK ギャラリー1・2期計画 ○加藤詞史 (早稲田大)・宮里直也

14110 メンブレン式切頂二十面体ドームの施工法の提案 パンタドーム構法適用の可能性 ○水野佑理 (日本大)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・竹内義典

14120 連結したホルン型張力膜屋根の設計 ○宮里直也 (日本大)・斎藤公男・岡田 章・杉浦定雄

AD賞の10年

佐藤光彦

「AD賞」は、1999年に創設された、卒業設計作品に贈られる賞です。AD2007賞まで9回続き、10回目は開催されることなくその役割を終え終了しました。桜建賞その他の賞が大学や桜建会から授与されるものであるのに対し、AD賞は当時の非常勤講師（アストリッド・クライン、今村雅樹、佐藤光彦、杉千春、曾我部昌史、田島夏樹、西沢立衛）によって、自主的に設けられ運営されたものでした。

数年前までは、卒業研究は設計と論文の両方が必須であり、卒業設計の審査も全教員の投票によって行われていました。そのせいか、選ばれる作品はまんべんなく票を集める優等生的な作品となることも多く、特徴のある設計や、デザインの能力に優れた学生が受賞するとは限りませんでした。このような状況に対し、非常勤講師であった若手建築家たちの間で、自分たちが指導した優秀な学生の卒業設計を自らが評価し顕彰してあげたい、という気運が高まった結果、非常勤講師が手弁当で集まり、審査をするというユニークな賞が生まれたのです。賞の名称は、西暦紀元（Anno Domini）と、Architectural Design をかけたもので、アストリッド・クライン氏の命名です。

自分たちでつくった賞ですから、審査も真剣で厳しく

なります。そのためか、栄えある第1回目のAD1999賞は「該当作なし」で幕を開けることになりました。翌年より修士設計を対象とした「AD+（プラス）賞」が始まりますが、初年度は同じく「該当作なし」でした。学生たちも、桜建賞の時からさらにプレゼンテーションに手を加えて審査に臨むようになり、中には最初から桜建賞ではなくAD賞を狙う学生も出てきました。受賞者にはセブンチェア（仕上げは本人が選択できる）1脚が贈られますが、該当作がない場合は翌年に繰り越されるため、2脚のセブンチェアをもらった幸運な学生もいました。各年度の受賞者、審査員、同年度の桜建賞、斎藤賞（吉田賞）を下の表にまとめています（ただし、桜建賞を受賞した学生がAD賞に応募しているとは限らないので、単純な比較はできません）。

このようにして毎年開催されてきたAD賞が昨年開催されなかった理由ですが、卒業研究が論文と設計の選択となり、卒業設計の審査は設計計画系の先生のみによって行われるようになったことや、当時の審査員であった今村先生と私が専任教員になったこと、などから桜建賞との差がつきにくくなったことが挙げられます。また、「卒業設計日本一決定戦」（2003～）や「赤レンガ卒業設計展」（2004～）など、全国規模で卒業設計を競い合う賞が創設され、自分の作品をより広く世に問うさまざまな場ができたこともあります。

AD賞は10年足らずでその役割を終え幕を下ろしましたが、その間建築家を志す幾人もの学生を勇気づけ、叱咤し、社会へと送り出しました。この賞を創設し支えてくださった審査員の先生方に改めて御礼を申し上げます。

なお、今年度からは別のかたちでの新しい賞（新AD賞？）を設けることも考えていますので、卒業設計に臨む学生たちは楽しみに頑張ってください。

（さとうみつこ・准教授）

	AD賞（卒業設計）	AD+賞（修士設計）	審査員	桜建賞受賞者	斎藤賞受賞者
1999	該当作なし		アストリッド・クライン、今村雅樹、佐藤光彦、杉千春、曾我部昌史、田島夏樹、西沢立衛	隅谷直子 堀 祐子	設計での受賞者なし
2000	「Ecology & Community」飯山千里	該当作なし	アストリッド・クライン、今村雅樹、佐藤光彦、杉千春、竹内昌義、田島夏樹、西沢立衛	伊藤隆太郎 鈴木清久	近藤創順
2001	「ハイブリッドライブラリー」長谷川洋平 「ツチコミタウンプロジェクト」海老原 綾	開催されず	アストリッド・クライン、小泉雅生、佐藤光彦、高橋真奈美、田島夏樹、西沢立衛	大森紘子 長谷川洋平	設計での受賞者なし
2002	「Alternative Housing」友村有香	「野毛山動物ミュージアム」飯山千里	アストリッド・クライン、小泉雅生、佐藤光彦、杉千春、西沢立衛	大平貴臣 後関考啓	飯山千里
2003	「カステラマンション」北村直也	「東京外国語大学跡地における都市再生住宅と公園の設計」末岡佐江子	小泉雅生、佐藤光彦、杉千春、曾我部昌史、西沢立衛	鈴木智香子 石崎哲也	末岡佐江子
2004	「多摩ニュータウン再創造」大前多恵子	該当作なし	小泉雅生、佐藤光彦、杉千春、曾我部昌史、西沢立衛	岩井友希 高橋ユカリ	二村弘志郎
2005	該当作なし	「新橋アーバンコンプレックス」 中田幸宏	小泉雅生、佐藤光彦、杉千春、曾我部昌史	飯島真由美 林 祐輔	落合正行
2006	「麒麟 stitch」三好礼益	該当作なし	城戸崎和佐、小泉雅生、佐藤光彦、曾我部昌史	三好礼益 上野建吾	中野泰宏
2007	「Hotel Mokumitsu」小野志門 (ただし「奨励賞」として)	「浅草隅田川河畔における芝居空間の提案」山田明里	小泉雅生、曾我部昌史、西沢大良	祖父江一宏	山田明里 (吉田鉄郎賞)

AD賞リスト

■北山社君（不動産 M1）、山田泰宏君（M1）、川島和彦専任講師、小嶋勝衛教授、根上彰生教授、宇於崎勝也准教授連名の原著論文「中国・上海市における軌道交通整備に伴う都市開発の実態に関する研究 駅周辺地域の商業機能に着目して」が、日本都市計画学会の都市計画論文集 No.43-2(学術研究論文発表会論文)に掲載された。

■八藤後猛研究室が、日本大学、日本福祉大学、積水ハウス(株)と共同で「第2回キッズデザイン賞」(主催:キッズデザイン協議会)のリサーチ部門賞を受賞した。この賞は、子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達に役立つ製品、コンテンツ、活動、研究などを顕彰するもので、「乳幼児を対象とした身体および動作計測装置の開発と建築安全計画への考察」による成果が、子どもを対象とした製品開発や安全計画などに貢献すると評価された。

■佐藤慎也研究室が、11月1日～16日に茨城県取手市で開催された「取手アートプロジェクト2008」に、83組の応募から公募アーティストとして選出された。取手井野団地で1ヵ月間の滞在制作を行い、3DKの1室に21人の共同生活を行う『+1人/日』と題したプロジェクトを発表した。



+1人/日

■松岡伸明君(今村研 M1)の「ニワをつかむ家」が「Ishikawa group 2008 住宅設計コンペ 優秀賞」(主催:㈱イシカワ・㈱スターツ)を受賞した。「環境」をテーマに最優秀賞作品は実際に建設さ

教室ぶろむなード

れるもので、627点の応募から選ばれた。

■一條真人君(佐藤光彦研 M2)、小野志門君(同 M1)、中村太一君(同 M2)の「大きな森と長い動物園」が、「第3回愛知建築士会学生コンペ 優秀賞」(主催:㈱愛知建築士会学生コンペ特別委員会)を受賞した。「瀬戸グランドキャニオン」をテーマに、瀬戸の将来を見据えたリノベーションプランと建築の提案が求められた。



大きな森と長い動物園

■岩井友佑君(今村研 M1)、柳橋啓一君(佐藤光彦研 M1)の「オリガミハウス」が、「第25回 JIA 東海支部建築設計競技 一般部 銅賞」(主催:JIA 東海支部)を受賞した。「奥 和の遺伝子を探る」をテーマに198点の応募から選ばれた。



オリガミハウス

■櫻田和也君(横河研 M2)の「広告×森林公園」が、「第27回総合報道 OOH 賞 2008 佳作」(主催:㈱総合報道)を受賞した。「わくわくする OOH (Out OF Home)」をテーマに、屋外広告の

ビジュアルデザインへの提案が求められ、60点の応募から選ばれた。



広告×森林公園

■高橋恵多君(横河研 M2)の「sculpture」が、「木愛の会 第一回設計競技 特別賞」(主催:木愛の会)を受賞した。「あたらしい木の建築 魅了する木造都市へ」をテーマに、新しい木の建築への提案が求められた。



sculpture

■吉野泰子短大教授は、全国建築審査会協議会および船橋市から10年間にわたる建築審査会委員としての建築行政への功績により平成20年度行政功労賞を受賞した。

■田所辰之助短大准教授が執筆した『近代工芸運動とデザイン史』(デザイン史フォーラム編、共著、思文閣出版)が刊行された。

■田所辰之助短大准教授は、6月30日に建築会館で開催されたシンポジウム「日本における近代建築の原点 吉田鉄郎の作品を通して」(主催:日本建築学会)においてパネラーを務め、「著作『日本の住宅』の翻訳を通じて 吉田鉄郎の近代建築像とその独自性」と題した講演を行った。

駿建目次

2008年11月号 Vol.36 No.3 通巻150号

表紙「AD賞受賞作品」

「NU ARCHITECTURE WEEK

(NU 建築週間) 2008」報告

2008年度 デザインワークショップⅡ

SUPER JURY 2008

第40回 建築学生海外研修旅行報告

オリエンテーション報告 13

2008年度 日本建築学会大会(中国)

建築学科教室関係者発表論文リスト 14

AD賞の10年 19

教室ぶろむなード 20